



かわむら整形外科

患者さんへの啓発活動を通じて 骨粗鬆症治療継続率の向上へ

かわむら整形外科 ● 〒076-0011 北海道富良野市末広町6-20

看護部 保勇 美祐樹 氏、田村 理奈 氏、西本 香 氏

当院は、人工関節置換術や靭帯再建手術などを行う高齢の患者さんが多く、疾患の背景に骨粗鬆症が考えられるケースがほとんどなので、以前から積極的に骨粗鬆症診療に取り組んできたつもりでした。しかし、3年ほど前に調査したところ、1年間骨粗鬆症治療を継続できた割合は約4割にとどまることが明らかになり、体制の見直しを進めてきました。

2014年10月に骨粗鬆症リエゾンチームを立ち上げました。現在、看護師2人、放射線技師1人、理学療法士1人が「骨粗鬆症マネージャー (OLS)」の資格を有しており、医師らと協力して活動しています。月1回の会議を開いているほか、OLSが中心となって、月1回の割合で患者さん向けに院内公開講座を開催しています。骨粗鬆症患者さん以外にも関心を持ってもらえるよう外来待合室で行い、開催前には院内にポスターを掲示するなどして参加を呼びかけています。

病院内のネットワークを活用して、骨粗鬆症患者さん専用の情報ファイルを作成しており、新規に治療開始となった骨粗鬆症患者さんの詳細を掲示板で共有する仕組みも設けています。X線撮影や骨密度検査などの関連検査を行う

日程の一覧表を作成し、スタッフ全員で情報を共有し治療管理を行っています。

治療継続率を向上させる新たな試みとして、「骨太手帳」を作成し、2017年1月から患者さんに配布しています。手帳に骨粗鬆症に関する情報をどの程度詳しく盛り込むか議論し、骨粗鬆症に関する解説部分は、治療継続の重要性を中心とした5ページにとどめ、次回受診予定日やその日にどのような検査・治療を行うかを簡潔に書くページを多く設けました。次回の受診予定日を明確にし、確実に来院で治療を継続してもらうことに主眼を置いたためです。

また、カレンダーを活用して外来患者さんの通院管理も行っています。受診予定日に患者さんの名前を書いた付箋を貼り、受診されたら次回の受診予定日に付箋を貼り替えます。受診されなかった患者さんの付箋がカレンダーに残っていくため、来院していないことが一目でわかります。2週間から1カ月ほど受診されていない患者さんには電話連絡を行い、受診できなかった理由を尋ね、新たな受診予約を取るようになっています。

先日、テリパラチド週1回投与製剤に関して投与開始から1年間の治療継続率を調べたところ、リエゾンチーム

発足時の約6割から現在は約8割に向上していました。看護師としては投与時に腹部の皮下に確実に投与し、また患者さんにこまめな声かけを行い、水分を十分に摂っているか、体調に変化がないか、逐次確認を心がけています。導入時に、週1回24カ月間続ける注射ですと説明すると「最後まで続けられるか不安」とおっしゃる患者さんもおられますが、続けていくと週1回の受診は体調管理の面で安心するという声も聞かれ、看護師の定期的なサポートも治療を続ける動機付けになっているようです。

導入時に体調不良が生じ、投与継続を躊躇される患者さんには、治療の意義を理解され、次の骨折をしないために頑張って投与を完遂されたケースのお話をして励ますこともあります。当院は交通の便があまりよくないため、独自の送迎システムを運用しており、こちらも治療継続率の向上に寄与していると思います。

高齢の骨粗鬆症患者さんは内科的疾患を抱えていることも多く、他院受診を機に骨粗鬆症治療が途絶えてしまうことがあります。治療継続率をさらに上げていくために、今後、近隣病院や調剤薬局とも連携していきたいと考えています。

当院での診療の工夫

- ① 次回受診予定日がわかりやすい「骨太手帳」を配布し治療継続につなげる
- ② 院内公開講座の開催や検査・治療の予定表管理などで脱落患者を減らす
- ③ テリパラチド週1回投与製剤の投与患者にはこまめな声かけを心がける

